普及だより
ふじつ
第110号
発行・編集
杵藤農林事務所
藤津農業
振興センター
TEL0954-62-5221

シーズン ひと 人
シリーズ57

仲間とともに茶業界発展!!

田中将也さん（33歳）

嬉野市で茶園６ｈａを経営されている田中将也さんを紹介します。

田中さんは高校卒業後、農研機構の農業技術研修制度を活用し、２年間静岡県で茶生産技術を学ばれた後、ＪＡさがにお茶の指導員として就職されました。９年後、２９歳の時　に嬉野茶農家「たなか園」の５代目として就農されました。

茶園管理は３０ａからスタートし、その後５年間で６ｈａまで規模拡大されており、ここ数年は、有望品種への改植に力を入れ、収量向上に励まれています。

また、田中さんは人脈づくりにも積極的で、現在、茶業青年会と藤津地区農村青少年クラブ連絡協議会（４Ｈクラブ）に所属され、品目を問わず多くの農家と交流の機会を作られています。今年１月に開催された、九州・沖縄地区青年農業者会議では、佐賀県代表として、茶農家仲間と取り組んだ『次世代につながるうれしの茶ファンづくり』や『持続可能な所得向上を目指す「グリーンレタープロジェクト」』の活動を発表されました。その結果、地域活動部門で最高得点を獲得し、３月に開催される全国青年農業者会議への九州・沖縄地区代表に選出されました。

田中さんは今回の活動を通じて、地域の若い茶農家のモデルとなり、ゆくゆくは他地域にも自分たちの活動を波及させて茶業界の発展に貢献したいと今後の抱負を述べられました。

今後ますますの活躍が期待されます。

受賞おめでとうございます

＜佐賀農業賞＞

先進的農業経営の部　最優秀賞　農林水産大臣賞

太良町　川﨑豊洋氏・智佐子氏

川﨑氏は、太良町内の樹園地を集積し基盤整備して効率的なカンキツ栽培により、農事組合法人「かねひろ」を経営されています。主力のミカンについては２１ha 栽培し、独自開発した黒酢アミノ酸を活用した栽培方法で「黒酢みかん」のブランド化に成功し、一般のミカンと差別化を図ることで高値販売が可能となり、収益向上が図られました。また「シャインマスカット」等ブドウ栽培にも取り組み始め、夏場の雇用創出と収益の確保により、周年雇用と売り上げ増による経営改善が図られています。更に６次産業化としてフードコーディネーター（野菜ソムリエ上級プロ）を雇用し、加工品の開発を行い、外部の会社に委託して販売に取り組まれています。

今後、新規就農者を受け入れて農地継承していくシステムの構築を検討されており、地域の果樹担い手の増加によって、ミカン産地の発展が期待されます。

若い農業経営者の部　最優秀賞　九州農政局長賞

太良町　中西大輔氏・雅子氏

中西氏は、カンキツ経営にブドウ栽培を加えた果樹複合経営により周年出荷体制を確立されています。主力である温州ミカンは気象に左右されやすい極早生偏重の品種構成から早生、普通系統へ改植を進めるとともに徹底したマルチ栽培により高品質果実生産を実践されています。極早生においても、じょうのう膜が柔らかく食味の良い「ゆら早生」に更新を図っており高い市場評価を得ています。また中晩生カンキツでは市場流通量が少ない４～５月に「南津海」（なつみ）を出荷し、香酸カンキツではレモンを導入して契約販売することで、収益性を高めています。

更にシャインマスカット等ブドウ栽培に町内でいち早く取り組みカンキツ栽培と合わせて年間を通した雇用を創出しており、果樹複合経営の規模拡大を図ることで法人化を目指されています。

女性農業者の部　優秀賞　佐賀県農業協同組合中央会長賞

鹿島市　塚島信子氏・隆弘氏

塚島氏は「循環型農業を基本に、ストレスが少ないフリーストール牛舎で乳質が優れた安心安全な美味しい牛乳を届けたい。」を経営理念に、家族全員で役割分担を明確にし、酪農経営を実践されています。糞尿についても完熟発酵にこだわり、良質堆肥生産に取り組んでおり、さらに生産した堆肥を圃場へ還元して、自給飼料（ＷＣＳ）及びトウモロコシの生産も行っています。

平成２７年からは自家産のこだわり牛乳からジェラートをつくり、直接消費者の皆さんに届けたいとの思いから６次化へと取り組まれました。また、地域の女性農業者活動でのつながりを活かし、特産物であるお茶、イチゴ、きな粉等を活用したジェラートの商品を開発し、経営の多角化を図っています。

受賞おめでとうございます

全国茶品評会（釜炒り茶の部）で秋月健次氏が農林水産大臣賞受賞

第７６回全国茶品評会（釜炒り茶の部）において、嬉野市嬉野町の秋月健次さんが農林水産大臣賞を受賞されました。

健次さんは約１３０ａの茶園を経営されており、地域の釜炒り茶農家４戸で組織される嬉野南部釜炒茶業組合の代表を務められています。当組合は、令和元年度から今回まで４年連続の農林水産大臣賞受賞という快挙を達成されています。

この快挙はコロナや豪雨災害、肥料高騰など、暗い話が続く中で産地を明るく照らすニュースとなっています。

今後も秋月健次さん、嬉野南部釜炒茶業組合の更なる活躍が期待されます。

快挙✨　明日香園のオリジナルケイトウが国際園芸博覧会で銀賞を受賞

国内の品評会でも数多く受賞されている明日香園ですが、今回は１０年に一度、オランダにて開催されているフロリアード２０２２アルメーレ国際園芸博覧会で「その他秋の花」部門において、世界中から多くの出品がある中、「アスカセレクト　ラビリンス」が銀賞を受賞されました。

明日香園は太良町でユリとケイトウを栽培されています。今回受賞したケイトウについては長年の育種により多彩なオリジナル品種を創出されています。発色が良く、光沢感があり、花首も硬く、ばらつきがないと市場から高い評価を受けています。収穫期のハウス内はケイトウが一斉に揃い、圧巻です。

佐賀県野菜生産改善共進会で宮﨑誠氏・由佳氏が農林水産大臣賞受賞

第４６回佐賀県野菜生産改善共進会「施設トマトの部」において、鹿島市の宮﨑誠氏・由佳氏が「個人の部」で最優秀賞および農林水産大臣賞を受賞されました。

宮﨑夫妻は、環境制御技術等を活用しながら、６３ａのハウスで丸トマトを栽培されています。高品質な果実生産のため、有機物にこだわった土づくりを行い、定植後は樹勢に合わせた温湿度管理を徹底されています。Ｒ３年からは、部会の副部会長を務められ、地域の若手リーダーとしても活躍されています。

今回の受賞は、資材高騰やトマト単価の低迷等の厳しい情勢の中で、産地の意欲向上･活性化に大きな影響を与えています。今後、ますますの活躍が期待されます。

さが園芸888運動

地域トピックス

ブロッコリーの産地育成を目指して

佐賀県では「さが園芸生産８８８億円推進運動」において、露地野菜で生産額１００億円ＵＰを目指しています。藤津地区では、ブロッコリーを露地野菜の新規推進品目に位置付け、関係機関一体となって産地育成を目指しているところです。

今年度、塩吹生産組合が初めてブロッコリーの作付けに取り組み、１１月末に初収穫を向かえました。来年度は、ブロッコリー生産者が増える見込みで、振興センターではＪＡと連携して引き続き技術支援を行い、産地育成を目指します。

ブロッコリー収穫作業（塩吹生産組合）

目指せ8トン！イチゴの実地研修がスタート！

トレーナー制度の取組推進が実を結び、みどり地区いちご部会で研修生の受け入れが開始しました。トレーナーの伊東鎮範氏のもとで、京都府出身の轟和海さんが栽培方法や経営管理について２年間学ばれます。１１／８に研修生受入式を開催したところ、轟さんは「１年目から高収量をとっていきたい」等、いきいきと語られました。伊東さんや関係機関からは、「１株当たり１ｋｇとれるように鍛えたい」「担い手が増えるのはいちご部会としても大変喜ばしい」等、研修への激励や歓迎の言葉が聞かれ、会場は温かい空気に包まれました。

藤津地区農業女子の取組が3つの組織に広がっています

「藤津農業女子ＦＪＴ８４」や「茶乃芽」、「藤津花き女性グループ」など、管内には若手女性農業者の組織が活発に活動しています。今年度は「さが農村マルシェ」への出展、視察交流を実施しました。新たな取組として、藤津花き女性グループが広島のフローリスト藤野氏を招き研修しました。また、お茶農家でつくる茶乃芽は福岡県宇佐川農園や作業衣の学習で久富手袋工業へ視察しました。今後も学びたい内容を企画し交流していきます。

「茶乃芽」視察研修

農福連携の輪が広がっています

農業経営課と障害福祉課のそれぞれのコーディネーターの協力を受け、嬉野市のキュウリ農家に、福祉事業所の活用を行いました。武雄市内の「いぶき村」に依頼し、「収穫終了後の片づけ」「マルチ張り」を問題なく作業が可能でした。これを受けて、別の農家も農作業を依頼し、好評でした。現在、マッチング事例を増やすため、福祉事業所を開拓中です。

この取組みを参考にして、県内施設キュウリ産地でも農福連携の拡大を図ります。

片づけ作業の様子